

目次

序に代えて	5
特許制度	11
1 制度のしくみ—技術公開と発明者保護	12
2 四つの権利・工業所有権	21
3 制度の歴史	25
出願	33
4 弁理士と特許事務所	34
5 出願	40
6 職務発明・権利共有	48
7 特許請求の範囲	55
8 出願から権利発生まで	67
9 実用新案のゆくえ	78
発明	83

10	特許される発明	84
11	物質特許	99
12	新規性と公知	103
13	先願主義、先願権	108
14	ノーハウ	112
15	利用発明、判定と裁定	119
	特許権と実施権	125
16	不実施特許の裁定実施権	126
17	先用実施権	130
18	特許権の効力	133
19	実施権の効力	136
	特許係争	143
20	異議申立と無効審判、証拠	144

21	除斥期間	148
22	特許権の技術的範囲、判定、防衛出願	154
23	特許侵害（原告側）	160
24	証拠保全	167
25	特許侵害（被告側）	169
	外国出願	173
26	外国出願	174
27	共産圏の場合	187
	意匠と商標	191
28	意匠（デザイン）	192
29	商標・四つの用途	197
30	有名商標—防衛の三パターン	207
31	外国商標	217
32	不正競争防止法	221

33	著作権法	225
34	二つのマドリッド協定	228
35	権利失効の原則	232
	その他	235
36	独占禁止法	236
37	特許プールとクロス・ライセンス	239
38	特許管理と調査	245
	終りに——感覚のずれが大きい	254
	年表	261

